

学校法人中長期計画：

私学を取り巻く環境は、一段の少子化により、厳しさを増している。湘南ふれあい学園各校(園)では、今後においても地域に必要とされる学校(園)であり続けるため、2019年度を初年度とする事業方針を策定し、中長期事業計画立案の指針とした。

第1期事業計画期間：2019年度～2022年度

学園中期事業方針：各学校は、地域社会に対して主体性、多様性及び協働性を有する「学修者」を育成する。

<重点課題>

①将来の医療従事者となるべく高い志を有する入学生の確保

・医療人としての適性を有する人材を早期に獲得するために、AO入試、推薦入試を実施する。

②教育及び研究の質向上と地域貢献

- ・FD研修/SD研修を推進する。
- ・研究計画書から、高評価(過年度科研費応募者)の教育研究者に対して、個人研究費の配分を引き上げ、研究支援を行う。
- ・公開講座や医療従事者(社会人)を対象としたスキルアッププログラムを実施し、生涯学習の機会を地域社会に提供する。
- ・地域医療機関との連携強化を図り、本学の有する知的資源を活用して社会のニーズに応える。

③学生の満足度向上と学校(園)の付加価値の向上

- ・チューター制度、ファカルティ・アドバイザー(クラス担任)制度の充実
- ・初年次生を対象とした職員による学生サポーター制度の導入を目指す。
- ・国家試験対策講座の強化
- ・学生相談機能の強化
- ・ボランティアをはじめ、様々な学生の活動への支援
- ・授業以外でも楽しく充実した時間を過ごせるキャンパスの整備

第2期事業計画期間：2023年度～2027年度

学園中期事業方針：主体性、多様性及び協働性の強化により、各学校の「学修者本位の教育力」を結集し、湘南ふれあい学園としての「総合力」を育む。

第3期事業計画期間：2028年度～2032年度

学園中期事業方針：湘南ふれあい学園として地域社会に対して主体性、多様性及び協働性を示すことができる保健、医療、福祉、教育が連携する「湘南ふれあいブランド」を構築する。

## 2019 年度

- ア 湘南医療大学 認定看護師研修センター認定看護管理者セカンドレベル開講予定
- イ 文科省防災機能等強化緊急特別推進事業に応募し、下田看護専門学校学生寮の耐震化工事を予定。
- ウ 2021 年4 月湘南医療大学に薬学部設置に向けて教員確保、教育用備品の準備等、申請準備を計画的に進める。
- エ 2021 年4 月湘南医療大学の第3 の学部として、茅ヶ崎保健医療学部（仮称）の設置計画準備を開始する。

## 2020 年度

- ア 湘南医療大学看護実践教育センター 認定看護師管理者部門ファーストレベル開講予定
- イ 湘南医療大学看護実践教育センター 特定行為研修申請中予定
- ウ 2021 年 4 月湘南医療大学薬学部医療薬学科設置に向けて、準備を進める。
- エ 茅ヶ崎看護専門学校、茅ヶ崎リハビリテーション専門学校の改組（大学学部昇格）計画を継続的に行う。
- オ 湘南医療大学大学保健医療学研究科(修士課程)に新領域（医療経営管理学領域）設置を検討する。
- カ 湘南医療大学大学院保健医療学研究科(博士課程)設置計画を検討

## 2021 年度

- ア 湘南医療大学薬学部医療薬学科開設
- イ 湘南東部総合病院と湘南医療大学看護キャリア開発コアセンター（看護実践教育センターの名称変更）が連携して、特定行為研修開講
- ウ 湘南医療大学横浜山手保健医療学部設置に向けて、準備を進める。
- エ 茅ヶ崎看護専門学校、茅ヶ崎リハビリテーション専門学校の改組（大学学部昇格）計画を継続的に行う。
- オ 湘南医療大学大学保健医療学研究科に新領域（医療経営管理学領域）設置を検討する。
- カ 湘南医療大学大学院保健医療学研究科に「博士課程」の設置計画を検討

## 2022年度

- ア 湘南医療大学保健医療学部看護学科定員変更（80名から140名）
- イ 湘南医療大学横浜山手キャンパス及び、薬学部校舎運用開始
- ウ 湘南医療大学専攻科（公衆衛生看護学専攻・助産学専攻）開設
- エ 湘南医療大学大学院保健医療学研究科 高度実践看護師教育課程（がん看護分野）開設
- オ 湘南医療大学茅ヶ崎保健医療学部（仮称）設置準備
- カ 湘南医療大学大学院保健医療学研究科（博士後期課程）設置準備
- キ 湘南医療大学大学院保健医療学研究科（修士課程）に「医療経営管理学領域」設置準備
- ク 湘南医療大学キャリア開発コアセンター新規事業（認定看護、専門看護）

第2期事業計画期間：2023年度～2027年度

学園中期事業方針：主体性、多様性及び協働性の強化により、各学校の「学修者本位の教育力」を結集し、湘南ふれあい学園としての「総合力」を育む。

第3期事業計画期間：2028年度～2032年度

学園中期事業方針：湘南ふれあい学園として地域社会に対して主体性、多様性及び協働性を示すことができる保健、医療、福祉、教育が連携する「湘南ふれあいブランド」を構築する。



①将来の医療従事者となるべく高い志を有する入学生の確保	○学校間連携教育 湘南ふれあい学園としての協力を高める。	(保健医療学部) 1「大専教員連携」において、相互出張授業、学生サークル活動や部活動連携活動を検討する。	(保健医療学部) 1「大専教員連携」としては、下田看護専門学校看護学科の授業に大学看護学科教員が出張授業を行った。	(保健医療学部) 1「大専教員連携」においては、湘南医療大学下田看護専門学校の在宅看護の授業を、茅ヶ崎看護専門学校の解剖生理学の授業をリハビリテーション学科の教授が担当を行い、連携を深めた。 (薬学部) 1「大専教員連携」においては、茅ヶ崎看護専門学校の薬理学の授業を薬学部設置準備の教員が授業を行い、連携を深めた。	(保健医療学部) 1「大専教員連携」においては、湘南医療大学下田看護専門学校の在宅看護の授業を看護学科の教員が授業を行い、連携を深めた。 2「大専教員連携」においては、茅ヶ崎看護専門学校の薬理学の授業を薬学部の教員が授業を行い、連携を深めた。
	①湘南ふれあい学園各校及びふれあいグループとの連携行事・活動の実施	2連携同窓会組織を開始し、スケールメリットを活かした学校間連携を展開する。	2連携同窓会組織を開始し、スケールメリットを活かした学校間連携を展開する。	2連携同窓会発足2号を発行した。2021年度は、コロナ禍の状況を見極めつつ、講演会等のイベントを計画したい。	2連携同窓会発足3号を発行した。2021年度も、コロナ禍であり、講演会等のイベントは出来なかったが、各校の同窓生の代表が集まり、今後の連携同窓会の運営について、協議した。
②教育及び研究の質の向上と地域貢献	②大学とみどり幼稚園との「幼大連携」	(保健医療学部看護学科) 1.実習施設として、また、幼稚園とのサポートや、大学教員による幼児・児童の栄養、アレルギー教育に関する認定こども園教員・保護者対象の研修会の実施などにより緊密な連携を図る。	(保健医療学部看護学科) 1.小児看護実習施設として、幼稚園児との交流を図った。但し、大学教員による研修会や講演会は実施することができなかった。	(保健医療学部) 1.2020年度は、新型コロナウイルス蔓延の影響により、みどり幼稚園との連携活動は行うことができなかった。	(保健医療学部看護学科・茅ヶ崎看護専門学校) 7月12日開茅ヶ崎看護専門学校から、10月～12月各週2日ほど湘南医療大学から実習生を受け入れた。各学年、一クラス1名実習に入り、健康小児の成長や関わりを学び、交流した。
	○研究推進活動に関する目標 ①個人研究並びに個人研究費 2017年度 3件 2018年度 3件 2019年度 4件 2020年度 4件 2021年度 7件 2022年度 18件 ②医学部 11 学術論文 原著 42 その他 24 報告書 13 学会発表 89	(研究推進室) 1.個人研究計画に基づき、研究活動を推進する。 2.個人研究費獲得を促進し、獲得した研究費の取得をめざし、優れた研究者や取り組みに対して、支援し、採択する。 3.研究費の使用について、経費の執行から研究成果までを社会的に説明できるようにする。	(研究推進室) 1.個人研究活動計画の評価を学長、副学長、学科長が行い、研究成果を把握し、推進する体制を取った。 2.個人研究費に追加して、特別研究費を獲得した結果、2018年度は4件、2020年度は7件の研究費取得につながった。 3.個人研究費の適正な使用について改善されているもの、一部に個人の授業での使用と個人研究における使用が混在する事例もあり、2021年度個人研究計画書に費用項目を設定し、より明確化する。	(研究推進室) 1.個人研究活動計画及び報告の評価を学長、学部長、学科長が行い、研究成果を把握し、より推進する体制強化した。 2.個人研究費に追加して、特別研究費を獲得した結果、2018年度は4件、2020年度は7件の研究費取得につながった。 3.個人研究費の適正な使用について改善されているもの、一部に個人の授業での使用と個人研究における使用が混在する事例もあり、2021年度個人研究計画書に費用項目を設定し、より明確化する。	(研究推進室) 1.個人研究活動計画及び報告の評価を学長、学部長、学科長が行い、研究成果を把握し、より推進する体制強化した。 2.2021年度は競争的特別研究費の獲得状況は継続を含めて26件(NSF-PT4・OT2・PIH・GME5)であった。また、大学院の研究補助金は1件であった。 3.個人研究費の適正な使用について改善されているもの、一部に特別研究の目的と個人研究における使用が混在する事例もあり、2022年度から、研究内容の構成品目は不可とした。また、特別研究費の対象者、対象項目をより明確化する。
③学生の満足度向上と学校(園)の付加価値の向上	②公的助金の推進	(研究推進室) 1.研究倫理教育、科研費応募説明会、研究不正防止研究を行い、公的助金を推進する。	(研究推進室) 1.2019年度の学内全体研修会において、研究倫理教育、科研費応募説明会、研究不正防止に関する研修を実施した。	(研究推進室) 1.2020年8-9月の学内全体研修会において、研究倫理教育、科研費応募説明会、研究不正防止に関する研修を実施した。	(研究推進室) 1.2021年8-9月の学内全体研修会において、研究倫理教育、科研費応募説明会、研究不正防止に関する研修を実施した。
	③共同研究の推進	(研究推進室) (4)地域連携による共同研究活動の推進に向けた、医療施設等との連携事業の強化 1研究者とグループ病院施設との共同研究を活性化させて、地域医療に貢献する研究活動を行う。	(研究推進室) 1.ふれあいグループが地域医療環境に必要と考える研究ニーズ(認知症歩行訓練等)を明示した上で、病院施設と組織連携を実施している本学研究者への共同研究テーマを募集した。新分野を開拓する。独自の研究テーマで、長期的な視点でグループ共同研究ができる研究を整理し、次年度に繋げる。	(研究推進室) 1.ふれあいグループ病院施設の職員と大学研究者の共同研究テーマにより、共同研究実施要項を設定し、応募する段階に達した。共同研究予算400万円を計上し、2021年度から実施を予定する。	(研究推進室) 1.2021年度は、コロナ禍であったため、ふれあいグループ病院施設の職員と大学研究者の共同研究の実施は、達成できなかった。2022年度は、大学が推進する研究テーマを絞り込み、可能範囲で共同研究を進める。
地域連携	④ブランディング研究の推進	(研究推進室) 1.大学独自色を打ち出せる特色ある研究を臨床医学研究所と連携を行いつつ、継続的に検討する。	(研究推進室) 1.臨床医学研究所に所属する2名の研究員が研究費を取得し研究を継続している。1名は「サルコペニアの病態」に関する研究、1名は、「てんかん発作病院における薬剤師の実態調査」に関する研究、を行い成果をあげている。今後本学特有の研究を推進できるように研究環境を強化する。	(研究推進室) 臨床医学研究所に所属する3名に加え、薬学部設置準備室の2名の教員が研究費を取得し、研究を継続している。5名の研究テーマは、2名は椎間板の研究、1名は「てんかん発作病院」に関する研究、1名は薬剤師のユーザーデザインに関する研究である。今後も、地域医療に還元される研究を推進する。	(研究推進室) 2021年度は、臨床医学研究所に所属する6名が研究費を継続または、取得し、研究を継続している。薬学系は、香り・抗酸化作用、神経ペプチドPACAPの神経伝達など、また、医学系では、消化器癌患者の研究、運動療法の再生など、研究テーマは、多岐にわたる。薬学部が設置された、基礎研究も活発に行われる土壌が出来始めたと考えている。
	○地域連携推進活動に関する目標 ①地域連携推進活動を充実させる	(地域連携推進室) 1.多様な地域貢献活動の円滑かつ計画的な実施と実践の質を向上させる。 2.公共団体自治体等と連携し、地域にねざし、地域と共に歩む活動を推進する。 3.地域公開講座を実施する 1)大学まつり/専門学校進学相談会 2)中学校職業体験受入れ 3)中学生対象大学体験会 4)地区住民の環境をモデルとした研究または実習	(地域連携推進室) 1.「ヨコハマ大学まつり」は、企画メンバーとして参加、横浜の大学として他大学と共に市民に大学の活動をアピールした。 2.戸塚区と連携した健康イベント「わくわく健康フェスタ」への参加、瀬谷区との小中学生向け体験講座「せやこども大学」について区と共に企画し開催した。 3.市民公開講座を年間7回企画した。(コロナウイルス感染拡大防止の為、2回中止とした) 4.戸塚区内中学校の職業体験学習を2校受け入れた。本学のグループ病院と連携し、医療職業体験会を実施した。	(保健医療学部 地域連携推進室) 1.「ヨコハマ大学まつり」は、新型コロナウイルスの影響により、パネル展示の企画のみとなった。 2.戸塚区と連携した健康イベント「わくわく健康フェスタ」は、新型コロナウイルスの影響により、オンラインで「看護のお仕事×クイズ」で参加、瀬谷区との小中学生向け体験講座「せやこども大学」は、中止となった。 3.市民公開講座は、オンラインで年間6回企画した。(薬学部関係4テーマ、看護関係1テーマ、リハビリ関係1テーマ) 4.戸塚区内中学校の職業体験学習は、コロナウイルス感染拡大防止のため、中止となった。	(保健医療学部・薬学部地域連携推進室) 1.前年同様、「ヨコハマ大学まつり」は、新型コロナウイルスの影響により、パネル展示の企画のみとなった。 2.戸塚区と連携した健康イベント「わくわく健康フェスタ」は、新型コロナウイルスの影響により、オンラインで「看護のお仕事×クイズ」で参加、瀬谷区との小中学生向け体験講座「せやこども大学」は、中止となった。 3.市民公開講座は、オンラインで年間6回企画した。(薬学部関係4テーマ、看護関係1テーマ、リハビリ関係4テーマ) 4.戸塚区内中学校の職業体験学習は、コロナウイルス感染拡大防止のため、中止となった。
②看護における臨床技術向上を促す研究を実施する	(看護教育センター) 1.臨床従事者向けに認定看護師(認知症分野)、認定看護管理者セカンドレベル(日本看護協会)に2019年10月に教育委員会として認定された。また、看護実習指導者講習会も実施した。(2021年度から県の委託事業として認定された。)また、特定行為研修(湘南東部総合病院と連携実施)の認可を受け、2021年度から実施することになった。	(看護教育センター) 1.臨床従事者向けに認定看護師(認知症分野)、認定看護管理者セカンドレベル(日本看護協会)に2019年10月に教育委員会として認定された。また、看護実習指導者講習会も実施した。(2021年度から県の委託事業として認定された。)また、特定行為研修(湘南東部総合病院と連携実施)の認可を受け、2021年度から実施することになった。	(看護教育センター) 1.臨床従事者向けに認定看護師(認知症分野)、認定看護管理者セカンドレベル(日本看護協会)に2019年10月に教育委員会として認定された。また、看護実習指導者講習会も実施した。(2021年度から県の委託事業として認定された。)また、特定行為研修(湘南東部総合病院と連携実施)の認可を受け、2021年度から実施することになった。	(看護教育センター) 1.臨床従事者向けに認定看護師(認知症分野)、認定看護管理者セカンドレベル(日本看護協会)に2019年10月に教育委員会として認定された。また、看護実習指導者講習会も実施した。(2021年度から県の委託事業として認定された。)また、特定行為研修(湘南東部総合病院と連携実施)の認可を受け、2021年度から実施することになった。	
	(看護教育センター) 1.認定看護師(認知症)13名 認定看護管理者(2nd) 9名 2020年度 認定看護師(認知症)13名 認定看護管理者(1st)22名 看護実習指導者講習会19名 2021年度 認定看護師(認知症)13名 認定看護管理者(2nd)9名(1st)28名 看護実習指導者講習会18名	(看護教育センター) 1.認定看護師(認知症)13名 認定看護管理者(2nd) 9名 2020年度 認定看護師(認知症)13名 認定看護管理者(1st)22名 看護実習指導者講習会19名 2021年度 認定看護師(認知症)13名 認定看護管理者(2nd)9名(1st)28名 看護実習指導者講習会18名	(看護教育センター) 1.認定看護師(認知症)13名 認定看護管理者(2nd) 9名 2020年度 認定看護師(認知症)13名 認定看護管理者(1st)22名 看護実習指導者講習会19名 2021年度 認定看護師(認知症)13名 認定看護管理者(2nd)9名(1st)28名 看護実習指導者講習会18名	(看護教育センター) 1.認定看護師(認知症)13名 認定看護管理者(2nd) 9名 2020年度 認定看護師(認知症)13名 認定看護管理者(1st)22名 看護実習指導者講習会19名 2021年度 認定看護師(認知症)13名 認定看護管理者(2nd)9名(1st)28名 看護実習指導者講習会18名	
①将来の医療従事者となるべく高い志を有する入学生の確保	①学生募集活動を強化し、各学科の受験倍率及び入学率の確保に努める	(募集・募集) 1.計画的な広報活動のもと、本学のアドミッション・ポリシーや特色を各種媒体や説明会を活用して広報活動し、多くの受験生かつ、本学が求める受験生を確保する。	(募集・広報) 1.年12回のオープンキャンパスと進路説明会を実施し、本学の特色や教育を理解いただき入学してもらえるようイベントを実施した。計画的な広報活動のもと、看護学科については、482名の志願者に対して、7ドセッション/ポリシーに基づく(選考の結果、82名の入学者(定員超過率1.03)であった。また、リハビリテーション学科は381名の志願者に対して、選考の結果、81名の入学者(定員超過率1.01)であった。	(募集・広報) 1.年12回のオープンキャンパス(WEB開校)と進路説明会を実施し、本学部の特色、教育内容をPRした。看護学科については、373名の志願者に対して、APIに基づく(選考の結果、81名の入学者(志願倍率4.7倍)であった。また、リハビリテーション学科は302名の志願者に対して、選考の結果、84名の入学者(志願倍率3.6倍)となった。2学科2専攻とも入学定員を充足した。 (薬学部 募集・広報) 1.認可の遅れ(2020年10月下旬)及びコロナ禍の影響により、学生募集においては、年14回のオープンキャンパス(WEB開校)と進路説明会を実施し、本学部の特色、教育内容をPRした。看護学科については、482名の志願者に対して、APIに基づく(選考の結果、82名の入学者(定員超過率1.03)であった。また、リハビリテーション学科は381名の志願者に対して、選考の結果、81名の入学者(定員超過率1.01)であった。	(募集・広報) 1.前年度も、コロナ禍の影響により、人数制限などの措置をとり、対面式で年11回のオープンキャンパスと入試説明会を実施し、本学部の特色、教育内容をPRした。看護学科は、定員超過で140名の募集に押し、350名の志願者に対して、APIに基づく(選考の結果、81名の入学者(志願倍率2.4倍)であった。また、リハビリテーション学科は296名の志願者に対して、選考の結果、80名の入学者(志願倍率3.7倍)となった。2学科とも入学定員を充足した。 (薬学部 募集・広報) 1.前年引き続き、コロナ禍の影響により、人数制限措置をとり、対面式で年11回のオープンキャンパスと入試説明会を実施し、本学部の特色、教育内容をPRし、参加者は本学と保護者等合わせて38名であった。入試は、総合選抜型者、及び推薦入試23名の受験生、一般入試76名の受験生数となった。看護学科は、192名の志願者に対して、APIに基づく(選考の結果、86名の入学者(倍率2.9倍)、入学定員充足率0.5となつた。前年度より改善されたものの、入学定員未充足であるため、引き続き、学生募集対策を強化する。
	②学校法人の理念並びに3つのポリシーの実践により、地域から必要とされる魅力的な学校(園)になるための広報活動及び各関係機関(等)との連携活動の推進	(募集・広報) 1.年12回のオープンキャンパスと進路説明会を実施し、本学部の特色、教育内容をPRした。看護学科については、373名の志願者に対して、APIに基づく(選考の結果、81名の入学者(志願倍率4.7倍)であった。また、リハビリテーション学科は302名の志願者に対して、選考の結果、84名の入学者(志願倍率3.6倍)となった。2学科2専攻とも入学定員を充足した。 (薬学部 募集・広報) 1.認可の遅れ(2020年10月下旬)及びコロナ禍の影響により、学生募集においては、年14回のオープンキャンパス(WEB開校)と進路説明会を実施し、本学部の特色、教育内容をPRした。看護学科については、482名の志願者に対して、APIに基づく(選考の結果、82名の入学者(定員超過率1.03)であった。また、リハビリテーション学科は381名の志願者に対して、選考の結果、81名の入学者(定員超過率1.01)であった。	(募集・広報) 1.年12回のオープンキャンパス(WEB開校)と進路説明会を実施し、本学部の特色、教育内容をPRした。看護学科については、373名の志願者に対して、APIに基づく(選考の結果、81名の入学者(志願倍率4.7倍)であった。また、リハビリテーション学科は302名の志願者に対して、選考の結果、84名の入学者(志願倍率3.6倍)となった。2学科2専攻とも入学定員を充足した。 (薬学部 募集・広報) 1.認可の遅れ(2020年10月下旬)及びコロナ禍の影響により、学生募集においては、年14回のオープンキャンパス(WEB開校)と進路説明会を実施し、本学部の特色、教育内容をPRした。看護学科については、482名の志願者に対して、APIに基づく(選考の結果、82名の入学者(定員超過率1.03)であった。また、リハビリテーション学科は381名の志願者に対して、選考の結果、81名の入学者(定員超過率1.01)であった。	(募集・広報) 1.年12回のオープンキャンパス(WEB開校)と進路説明会を実施し、本学部の特色、教育内容をPRした。看護学科については、373名の志願者に対して、APIに基づく(選考の結果、81名の入学者(志願倍率4.7倍)であった。また、リハビリテーション学科は302名の志願者に対して、選考の結果、84名の入学者(志願倍率3.6倍)となった。2学科2専攻とも入学定員を充足した。 (薬学部 募集・広報) 1.認可の遅れ(2020年10月下旬)及びコロナ禍の影響により、学生募集においては、年14回のオープンキャンパス(WEB開校)と進路説明会を実施し、本学部の特色、教育内容をPRした。看護学科については、482名の志願者に対して、APIに基づく(選考の結果、82名の入学者(定員超過率1.03)であった。また、リハビリテーション学科は381名の志願者に対して、選考の結果、81名の入学者(定員超過率1.01)であった。	(募集・広報) 1.前年度も、コロナ禍の影響により、人数制限などの措置をとり、対面式で年11回のオープンキャンパスと入試説明会を実施し、本学部の特色、教育内容をPRした。看護学科は、定員超過で140名の募集に押し、350名の志願者に対して、APIに基づく(選考の結果、81名の入学者(志願倍率2.4倍)であった。また、リハビリテーション学科は296名の志願者に対して、選考の結果、80名の入学者(志願倍率3.7倍)となった。2学科とも入学定員を充足した。 (薬学部 募集・広報) 1.前年引き続き、コロナ禍の影響により、人数制限措置をとり、対面式で年11回のオープンキャンパスと入試説明会を実施し、本学部の特色、教育内容をPRし、参加者は本学と保護者等合わせて38名であった。入試は、総合選抜型者、及び推薦入試23名の受験生、一般入試76名の受験生数となった。看護学科は、192名の志願者に対して、APIに基づく(選考の結果、86名の入学者(倍率2.9倍)、入学定員充足率0.5となつた。前年度より改善されたものの、入学定員未充足であるため、引き続き、学生募集対策を強化する。
②教育及び研究の質の向上と地域貢献	①学芸活動を推進する	(学芸活動推進室) 1.学芸活動推進室を推進する。 2.学芸活動推進室を推進する。 3.学芸活動推進室を推進する。 4.学芸活動推進室を推進する。 5.学芸活動推進室を推進する。 6.学芸活動推進室を推進する。 7.学芸活動推進室を推進する。 8.学芸活動推進室を推進する。 9.学芸活動推進室を推進する。 10.学芸活動推進室を推進する。 11.学芸活動推進室を推進する。 12.学芸活動推進室を推進する。 13.学芸活動推進室を推進する。 14.学芸活動推進室を推進する。 15.学芸活動推進室を推進する。 16.学芸活動推進室を推進する。 17.学芸活動推進室を推進する。 18.学芸活動推進室を推進する。 19.学芸活動推進室を推進する。 20.学芸活動推進室を推進する。 21.学芸活動推進室を推進する。 22.学芸活動推進室を推進する。 23.学芸活動推進室を推進する。 24.学芸活動推進室を推進する。 25.学芸活動推進室を推進する。 26.学芸活動推進室を推進する。 27.学芸活動推進室を推進する。 28.学芸活動推進室を推進する。 29.学芸活動推進室を推進する。 30.学芸活動推進室を推進する。 31.学芸活動推進室を推進する。 32.学芸活動推進室を推進する。 33.学芸活動推進室を推進する。 34.学芸活動推進室を推進する。 35.学芸活動推進室を推進する。 36.学芸活動推進室を推進する。 37.学芸活動推進室を推進する。 38.学芸活動推進室を推進する。 39.学芸活動推進室を推進する。 40.学芸活動推進室を推進する。 41.学芸活動推進室を推進する。 42.学芸活動推進室を推進する。 43.学芸活動推進室を推進する。 44.学芸活動推進室を推進する。 45.学芸活動推進室を推進する。 46.学芸活動推進室を推進する。 47.学芸活動推進室を推進する。 48.学芸活動推進室を推進する。 49.学芸活動推進室を推進する。 50.学芸活動推進室を推進する。 51.学芸活動推進室を推進する。 52.学芸活動推進室を推進する。 53.学芸活動推進室を推進する。 54.学芸活動推進室を推進する。 55.学芸活動推進室を推進する。 56.学芸活動推進室を推進する。 57.学芸活動推進室を推進する。 58.学芸活動推進室を推進する。 59.学芸活動推進室を推進する。 60.学芸活動推進室を推進する。 61.学芸活動推進室を推進する。 62.学芸活動推進室を推進する。 63.学芸活動推進室を推進する。 64.学芸活動推進室を推進する。 65.学芸活動推進室を推進する。 66.学芸活動推進室を推進する。 67.学芸活動推進室を推進する。 68.学芸活動推進室を推進する。 69.学芸活動推進室を推進する。 70.学芸活動推進室を推進する。 71.学芸活動推進室を推進する。 72.学芸活動推進室を推進する。 73.学芸活動推進室を推進する。 74.学芸活動推進室を推進する。 75.学芸活動推進室を推進する。 76.学芸活動推進室を推進する。 77.学芸活動推進室を推進する。 78.学芸活動推進室を推進する。 79.学芸活動推進室を推進する。 80.学芸活動推進室を推進する。 81.学芸活動推進室を推進する。 82.学芸活動推進室を推進する。 83.学芸活動推進室を推進する。 84.学芸活動推進室を推進する。 85.学芸活動推進室を推進する。 86.学芸活動推進室を推進する。 87.学芸活動推進室を推進する。 88.学芸活動推進室を推進する。 89.学芸活動推進室を推進する。 90.学芸活動推進室を推進する。 91.学芸活動推進室を推進する。 92.学芸活動推進室を推進する。 93.学芸活動推進室を推進する。 94.学芸活動推進室を推進する。 95.学芸活動推進室を推進する。 96.学芸活動推進室を推進する。 97.学芸活動推進室を推進する。 98.学芸活動推進室を推進する。 99.学芸活動推進室を推進する。 100.学芸活動推進室を推進する。	(学芸活動推進室) 1.学芸活動推進室を推進する。 2.学芸活動推進室を推進する。 3.学芸活動推進室を推進する。 4.学芸活動推進室を推進する。 5.学芸活動推進室を推進する。 6.学芸活動推進室を推進する。 7.学芸活動推進室を推進する。 8.学芸活動推進室を推進する。 9.学芸活動推進室を推進する。 10.学芸活動推進室を推進する。 11.学芸活動推進室を推進する。 12.学芸活動推進室を推進する。 13.学芸活動推進室を推進する。 14.学芸活動推進室を推進する。 15.学芸活動推進室を推進する。 16.学芸活動推進室を推進する。 17.学芸活動推進室を推進する。 18.学芸活動推進室を推進する。 19.学芸活動推進室を推進する。 20.学芸活動推進室を推進する。 21.学芸活動推進室を推進する。 22.学芸活動推進室を推進する。 23.学芸活動推進室を推進する。 24.学芸活動推進室を推進する。 25.学芸活動推進室を推進する。 26.学芸活動推進室を推進する。 27.学芸活動推進室を推進する。 28.学芸活動推進室を推進する。 29.学芸活動推進室を推進する。 30.学芸活動推進室を推進する。 31.学芸活動推進室を推進する。 32.学芸活動推進室を推進する。 33.学芸活動推進室を推進する。 34.学芸活動推進室を推進する。 35.学芸活動推進室を推進する。 36.学芸活動推進室を推進する。 37.学芸活動推進室を推進する。 38.学芸活動推進室を推進する。 39.学芸活動推進室を推進する。 40.学芸活動推進室を推進する。 41.学芸活動推進室を推進する。 42.学芸活動推進室を推進する。 43.学芸活動推進室を推進する。 44.学芸活動推進室を推進する。 45.学芸活動推進室を推進する。 46.学芸活動推進室を推進する。 47.学芸活動推進室を推進する。 48.学芸活動推進室を推進する。 49.学芸活動推進室を推進する。 50.学芸活動推進室を推進する。 51.学芸活動推進室を推進する。 52.学芸活動推進室を推進する。 53.学芸活動推進室を推進する。 54.学芸活動推進室を推進する。 55.学芸活動推進室を推進する。 56.学芸活動推進室を推進する。 57.学芸活動推進室を推進する。 58.学芸活動推進室を推進する。 59.学芸活動推進室を推進する。 60.学芸活動推進室を推進する。 61.学芸活動推進室を推進する。 62.学芸活動推進室を推進する。 63.学芸活動推進室を推進する。 64.学芸活動推進室を推進する。 65.学芸活動推進室を推進する。 66.学芸活動推進室を推進する。 67.学芸活動推進室を推進する。 68.学芸活動推進室を推進する。 69.学芸活動推進室を推進する。 70.学芸活動推進室を推進する。 71.学芸活動推進室を推進する。 72.学芸活動推進室を推進する。 73.学芸活動推進室を推進する。 74.学芸活動推進室を推進する。 75.学芸活動推進室を推進する。 76.学芸活動推進室を推進する。 77.学芸活動推進室を推進する。 78.学芸活動推進室を推進する。 79.学芸活動推進室を推進する。 80.学芸活動推進室を推進する。 81.学芸活動推進室を推進する。 82.学芸活動推進室を推進する。 83.学芸活動推進室を推進する。 84.学芸活動推進室を推進する。 85.学芸活動推進室を推進する。 86.学芸活動推進室を推進する。 87.学芸活動推進室を推進する。 88.学芸活動推進室を推進する。 89.学芸活動推進室を推進する。 90.学芸活動推進室を推進する。 91.学芸活動推進室を推進する。 92.学芸活動推進室を推進する。 93.学芸活動推進室を推進する。 94.学芸活動推進室を推進する。 95.学芸活動推進室を推進する。 96.学芸活動推進室を推進する。 97.学芸活動推進室を推進する。 98.学芸活動推進室を推進する。 99.学芸活動推進室を推進する。 100.学芸活動推進室を推進する。	(学芸活動推進室) 1.学芸活動推進室を推進する。 2.学芸活動推進室を推進する。 3.学芸活動推進室を推進する。 4.学芸活動推進室を推進する。 5.学芸活動推進室を推進する。 6.学芸活動推進室を推進する。 7.学芸活動推進室を推進する。 8.学芸活動推進室を推進する。 9.学芸活動推進室を推進する。 10.学芸活動推進室を推進する。 11.学芸活動推進室を推進する。 12.学芸活動推進室を推進する。 13.学芸活動推進室を推進する。 14.学芸活動推進室を推進する。 15.学芸活動推進室を推進する。 16.学芸活動推進室を推進する。 17.学芸活動推進室を推進する。 18.学芸活動推進室を推進する。 19.学芸活動推進室を推進する。 20.学芸活動推進室を推進する。 21.学芸活動推進室を推進する。 22.学芸活動推進室を推進する。 23.学芸活動推進室を推進する。 24.学芸活動推進室を推進する。 25.学芸活動推進室を推進する。 26.学芸活動推進室を推進する。 27.学芸活動推進室を推進する。 28.学芸活動推進室を推進する。 29.学芸活動推進室を推進する。 30.学芸活動推進室を推進する。 31.学芸活動推進室を推進する。 32.学芸活動推進室を推進する。 33.学芸活動推進室を推進する。 34.学芸活動推進室を推進する。 35.学芸活動推進室を推進する。 36.学芸活動推進室を推進する。 37.学芸活動推進室を推進する。 38.学芸活動推進室を推進する。 39.学芸活動推進室を推進する。 40.学芸活動推進室を推進する。 41.学芸活動推進室を推進する。 42.学芸活動推進室を推進する。 43.学芸活動推進室を推進する。 44.学芸活動推進室を推進する。 45.学芸活動推進室を推進する。 46.学芸活動推進室を推進する。 47.学芸活動推進室を推進する。 48.学芸活動推進室を推進する。 49.学芸活動推進室を推進する。 50.学芸活動推進室を推進する。 51.学芸活動推進室を推進する。 52.学芸活動推進室を推進する。 53.学芸活動推進室を推進する。 54.学芸活動推進室を推進する。 55.学芸活動推進室を推進する。 56.学芸活動推進室を推進する。 57.学芸活動推進室を推進する。 58.学芸活動推進室を推進する。 59.学芸活動推進室を推進する。 60.学芸活動推進室を推進する。 61.学芸活動推進室を推進する。 62.学芸活動推進室を推進する。 63.学芸活動推進室を推進する。 64.学芸活動推進室を推進する。 65.学芸活動推進室を推進する。 66.学芸活動推進室を推進する。 67.学芸活動推進室を推進する。 68.学芸活動推進室を推進する。 69.学芸活動推進室を推進する。 70.学芸活動推進室を推進する。 71.学芸活動推進室を推進する。 72.学芸活動推進室を推進する。 73.学芸活動推進室を推進する。 74.学芸活動推進室を推進する。 75.学芸活動推進室を推進する。 76.学芸活動推進室を推進する。 77.学芸活動推進室を推進する。 78.学芸活動推進室を推進する。 79.学芸活動推進室を推進する。 80.学芸活動推進室を推進する。 81.学芸活動推進室を推進する。 82.学芸活動推進室を推進する。 83.学芸活動推進室を推進する。 84.学芸活動推進室を推進する。 85.学芸活動推進室を推進する。 86.学芸活動推進室を推進する。 87.学芸活動推進室を推進する。 88.学芸活動推進室を推進する。 89.学芸活動推進室を推進する。 90.学芸活動推進室を推進する。 91.学芸活動推進室を推進する。 92.学芸活動推進室を推進する。 93.学芸活動推進室を推進する。 94.学芸活動推進室を推進する。 95.学芸活動推進室を推進する。 96.学芸活動推進室を推進する。 97.学芸活動推進室を推進する。 98.学芸活動推進室を推進する。 99.学芸活動推進室を推進する。 100.学芸活動推進室を推進する。	(学芸活動推進室) 1.学芸活動推進室を推進する。 2.学芸活動推進室を推進する。 3.学芸活動推進室を推進する。 4.学芸活動推進室を推進する。 5.学芸活動推進室を推進する。 6.学芸活動推進室を推進する。 7.学芸活動推進室を推進する。 8.学芸活動推進室を推進する。 9.学芸活動推進室を推進する。 10.学芸活動推進室を推進する。 11.学芸活動推進室を推進する。 12.学芸活動推進室を推進する。 13.学芸活動推進室を推進する。 14.学芸活動推進室を推進する。 15.学芸活動推進室を推進する。 16.学芸活動推進室を推進する。 17.学芸活動推進室を推進する。 18.学芸活動推進室を推進する。 19.学芸活動推進室を推進する。 20.学芸活動推進室を推進する。 21.学芸活動推進室を推進する。 22.学芸活動推進室を推進する。 23.学芸活動推進室を推進する。 24.学芸活動推進室を推進する。 25.学芸活動推進室を推進する。 26.学芸活動推進室を推進する。 27.学芸活動推進室を推進する。 28.学芸活動推進室を推進する。 29.学芸活動推進室を推進する。 30.学芸活動推進室を推進する。 31.学芸活動推進室を推進する。 32.学芸活動推進室を推進する。 33.学芸活動推進室を推進する。 34.学芸活動推進室を推進する。 35.学芸活動推進室を推進する。 36.学芸活動推進室を推進する。 37.学芸活動推進室を推進する。 38.学芸活動推進室を推進する。 39.学芸活動推進室を推進する。 40.学芸活動推進室を推進する。 41.学芸活動推進室を推進する。 42.学芸活動推進室を推進する。 43.学芸活動推進室を推進する。 44.学芸活動推進室を推進する。 45.学芸活動推進室を推進する。 46.学芸活動推進室を推進する。 47.学芸活動推進室を推進する。 48.学芸活動推進室を推進する。 49.学芸活動推進室を推進する。 50.学芸活動推進室を推進する。 51.学芸活動推進室を推進する。 52.学芸活動推進室を推進する。 53.学芸活動推進室を推進する。 54.学芸活動推進室を推進する。 55.学芸活動推進室を推進する。 56.学芸活動推進室を推進する。 57.学芸活動推進室を推進する。 58.学芸活動推進室を推進する。 59.学芸活動推進室を推進する。 60.学芸活動推進室を推進する。 61.学芸活動推進室を推進する。 62.学芸活動推進室を推進する。 63.学芸活動推進室を推進する。 64.学芸活動推進室を推進する。 65.学芸活動推進室を推進する。 66.学芸活動推進室を推進する。 67.学芸活動推進室を推進する。 68.学芸活動推進室を推進する。 69.学芸活動推進室を推進する。 70.学芸活動推進室を推進する。 71.学芸活動推進室を推進する。 72.学芸活動推進室を推進する。 73.学芸活動推進室を推進する。 74.学芸活動推進室を推進する。 75.学芸活動推進室を推進する。 76.学芸活動推進室を推進する。 77.学芸活動推進室を推進する。 78.学芸活動推進室を推進する。 79.学芸活動推進室を推進する。 80.学芸活動推進室を推進する。 81.学芸活動推進室を推進する。 82.学芸活動推進室を推進する。 83.学芸活動推進室を推進する。 84.学芸活動推進室を推進する。 85.学芸活動推進室を推進する。 86.学芸活動推進室を推進する。 87.学芸活動推進室を推進する。 88.学芸活動推進室を推進する。 89.学芸活動推進室を推進する。 90.学芸活動推進室を推進する。 91.学芸活動推進室を推進する。 92.学芸活動推進室を推進する。 93.学芸活動推進室を推進する。 94.学芸活動推進室を推進する。 95.学芸活動推進室を推進する。 96.学芸活動推進室を推進する。 97.学芸活動推進室を推進する。 98.学芸活動推進室を推進する。 99.学芸活動推進室を推進する。 100.学芸活動推進室を推進する。
	③学生の満足度向上と学校(園)の付加価値の向上	○人事計画	1.各(園)の事業計画を達成するために資質の高い人材を登用し、全教職員が学生全員に寄り添った教育活動に専念できる組織を構築するため、各部署で適正と判断される人員数の配置を進める。	1.大学事務職員の職階により、更に職員教育の重要性が高まった。資質の高い人材を登用し、長所を生かし、本学の理念や本学の事業方針の組織下で、個々の能力を活かすことができる組織での人員配置が次年度の課題である。看護学科、並びにリハビリテーション学科の教員は、欠員専任教員の補充は進められ、大学設置基準に求められる教職員数を超える教職員を配置した。	1.前年度よりも事務職員の職階が増加した。歴史が浅い大学であるが故、職員の処遇、業務の非固定化、組織への帰属意識の低下、研修体制など、課題が山積している。但し、新入職員の増加により、旧職制業務に、業務効率向上の変化の兆しがあり、期待ももてる。また、大学院の教員2名の不足が文科系から指摘を受けたが、文科系教員審査に2名を追加申請し、教員数を確保できた。
②教育及び研究の質の向上と地域貢献	○研究推進活動に関する目標 ①個人研究並びに個人研究費 2017年度 3件 2018年度 3件 2019年度 4件 2020年度 4件 2021年度 7件 2022年度 18件 ②医学部 11 学術論文 原著 42 その他 24 報告書 13 学会発表 89	(研究推進室) 1.個人研究計画に基づき、研究活動を推進する。 2.個人研究費獲得を促進し、獲得した研究費の取得をめざし			

運営	②会議・委員会を充実させる	1.運営管理会議、教授会、各校運営会議、各種委員会等の会議を充実させて、経営と教育が連動して「教育の質の向上」を目指す。そして国家試験100%、休退学者0を目標に教育指導体制を整備する。	1.2019年度は、運営管理会議21回、教授会16回、教務委員会12回、学生支援委員会8回、FD委員会2回、入試委員会5回、図書委員会4回、研究倫理委員会5回、研究推進委員会5回、地域連携推進委員会6回を実施し、教育の質の向上のための課題を検討した。併せて、私立大学等改革総合支援事業のタイプ1、特色ある教育の展開にある未達成事業に取り組みながら、採択に至らなかった。	(保健医療学部) 1.2020年度は、運営管理会議26回、教授会11回、教務委員会11回、学生支援委員会18回、FD委員会7回、自己点検・評価委員会8回、入試委員会4回、図書委員会8回、研究倫理委員会4回、研究推進委員会5回、キャリア支援委員会1回を開催し、教育の質保証、研究活動の充実、組織運営の向上を目指した。また、前年度から継続し協働を重ねた私立大学等改革総合支援事業のタイプ1、教育の質の向上の未達成事項の減少はできたものの、2020年度も採択には至らなかった。 (大学院) 1.2020年度は、運営管理会議32回、研究科委員会11回を開催し、大学院学生の募集活動や院生の研究活動に関する検討を行った。 (薬学部) 1.2020年度は、薬学部開設に向けて、薬学部設置準備室会議21回を開催し、文科省への申請した教育内容に沿った準備、学生募集活動、入試等について検討を重ねた。	(保健医療学部) 1.2021年度は、運営管理会議49回、教授会18回、教務委員会12回、学生支援委員会12回、FD委員会4回、自己点検・評価委員会3回、入試委員会2回、図書委員会4回、研究倫理委員会4回、利益相反委員会3回、研究推進委員会3回、キャリア支援委員会3回を開催し、教育の質保証、研究活動の充実、組織運営の向上を目指した。また、私立大学等改革総合支援事業のタイプ1は、2021年度は35点になったが採択には至らなかった。 (大学院) 1.2021年度は、運営管理会議10回、研究科委員会12回を開催し、大学院学生の募集活動や院生の研究活動に関する検討を行った。 (薬学部) 1.2021年度は、運営管理会議49回、教授会15回、教務委員会11回、学生支援委員会11回、FD委員会3回、自己点検・評価委員会2回、入試委員会2回、図書委員会1回、研究倫理委員会6回、利益相反委員会3回、研究推進委員会4回、地域連携推進委員会4回、キャリア支援委員会1回を開催した。	
	③ IR 担当の設置(継続)	1.大学、各専門学校が行っている教育内容・研究内容の開示、グループ関連施設等での実習施設情報等、教育・研究・経営全般の様々な情報収集・分析を反映した企画・立案するIR担当者を設置できる環境を整備する。今年度も引き続き、学生・保護者等から支援する方々に、教育活動及び経営情報を提供し、学園の目指す姿を提示し、理解を深めてもらえよう計画的に実施する。	1.大学のホームページに本学の活動報告として、教育内容や研究内容など様々な情報を開示している。但し、それらの種々の開示情報についての分析作業や分析結果の公表は、IR担当の今後の課題である。また、教育活動や経営状況の情報は、大学情報などの広報誌を作成するなど、今後の努力目標である。また、保護者会などを組織を置き、大学への理解を深められる場を設けること検討課題である。	1.本学のIRは、入試、教務、研究支援を中心とする大学の各種情報については、各委員会及び各部署(各学科、各事務部署、法人本部)、各教員にて継続的に蓄積し、保存している基礎データに基づき、教育改善のために集計し、分析できる資料を有している。集計・分析結果は、部署又は、個人ベースで各委員会や全体研修会、FD研修会、SD研修会にて発表・共有し、入試、広報、教育、研究の改善に役立てている。但し、現在、データが分散して保管されていることにより、部門ごとの単一データの経年比較が難しく行えず、データの応用性に乏しく、各種のデータを組み合わせるようによりIR専門部門を設置することが課題である。	1.2020年度SD研修は5回実施した。学生募集に関する研修以外に、コロナ禍におけるmanabaを使用したオンデマンド授業の学習支援、私立大学等改革総合支援事業の未達課題、自己点検・評価に向けた取り組み、業務改善、年間PDCの分析などについて研修を実施した。しかし、実施を予定していた事務処理能力の向上、事務経費削減の研修は中止となった。 2.2020年度のFD研修は5回実施した。授業研究、国家試験対策、就職支援、研究不正防止、教育の質の向上の取り組み、実習指導方法、コロナ禍における講義などの研修を実施した。	1.2021年度に認証評価を受審した本学の課題として残ったのは、IR部門の未設置である。入試、教務、研究支援の各種情報は、従前どおり、各委員会及び各部署(各学科、各事務部署、法人本部)、各教員にて継続的に蓄積し、保存している基礎データに基づき、教育改善・分析を前提とした資料を有している。集計・分析結果は、部署又は、個人ベースで各委員会や全体研修会、FD研修会、SD研修会にて発表・共有し、入試、広報、教育、研究の改善に役立てている。但し、集計が分散され、今後、データの分散・保管は、部門ごとの単一データの経年比較が難しく行えず、データの応用性に乏しい。2022年度以降にIR専門部門を設置し、様々な課題をデータ利用して課題でできるように準備する予定である。
	○人材育成 ①全体研修会(FD・S・D活動)	1.事務職員は、SD研修を継続的に実施するとともに、次世代リーダーの育成を図る。また、自己啓発支援を実施し、特にPCスキル、文書作成、財務能力の向上に向けた研修に取り組む。 2.教職員は、授業力・教育力・指導力等、資質向上に向けた体系的な個別研修を実施し、個々の教育スキルの向上に取り組めるFD活動を行う。	1.大学職員として必要な知識を修得するために、2019年度のSD研修は6回実施した。但し、学生募集や学生支援に関する研究が多く、予定していた事務処理能力の向上や財務諸表に関する研修は次年度以降に実施する。 2.2019年度のFD研修は6回実施した。専門部別研修では、「教育内容・教育方法の構築及び学修成果の可視化への取り組み」「国家試験対策教育」「チーム医療」並びに「多職種協働」を実施できる人材教育「大学が抱える課題への取り組み」などの研修を実施した。	1.2020年度のSD研修は5回実施した。学生募集に関する研修以外に、コロナ禍におけるmanabaを使用したオンデマンド授業の学習支援、私立大学等改革総合支援事業の未達課題、自己点検・評価に向けた取り組み、業務改善、年間PDCの分析などについて研修を実施した。しかし、実施を予定していた事務処理能力の向上、事務経費削減の研修は中止となった。 2.2020年度のFD研修は5回実施した。授業研究、国家試験対策、就職支援、研究不正防止、教育の質の向上の取り組み、実習指導方法、コロナ禍における講義などの研修を実施した。	1.2021年度のSD研修は4回実施した。学生募集に関する研修以外に、学生サービスの改善に取り組むための情報、教務・教育・学生支援・学生募集のPDCの作成、初年次教育における学生サービス(学生対応・教員連携)などの課題について研修を実施した。 2.2021年度のFD研修は5回実施した。新任教員及びその他の教員に対する教育方法、学生支援、就職支援、休退学者減少させるための学生指導、国家試験対策、3つのポリシーの理解、学修の質保証に関する取り組み、授業方法の改善、コロナ禍における学生指導・授業工夫、チーム医療教育、授業科目PDC・ポートフォリオ、教員相互の授業参観、地域貢献活動、臨床現場との連携などの研修を実施した。	

  

①将来の医療従事者となるべく高い志を有する入学生の確保 ②教育及び研究の質の向上と地域貢献 ③学生の満足度向上と学校の付加価値の向上	②全体PDC活動	1.全校対象で、PDC活動と称し、毎月、①学生募集 ②教務・学生支援 ③国家試験対策 ④6S(清掃、整頓、清潔、清拭、清拭、検、作法)活動 ⑤業務改善(教育課程、シラバス、学生便覧、教授方法等)の項目について、Plan(計画)・Do(行動)・Check(確認)を実施し、問題点や課題点の対策を行う。	1.PDC活動は、1回毎月行い、①学生募集は、資料請求者数や学校説明会参加者数の目標値の達成。②教務・学生支援は、学生サービスや事務作業の効率化の目標値の達成。③国家試験対策は、毎月の成績低下者への指導方法の目標値に達せず次期の課題がある。④6S(清掃、整頓、清潔、清拭、清拭、検、作法)活動は、毎月の役割を決めて、行動する項目の目標を達成。⑤業務改善(教育課程、シラバス、学生便覧、教授方法等)の項目については、全体研修会でのFDと連動させて目標を達成した。	学園の教職員が取り組む5つの活動にあるPDC活動は、前年引き続き毎月実施した。1年間の目標に対して、毎月の目標、行動計画、検証を行い、次月の目標を定めている。大項目の、①学生募集では、資料請求者やガイダンス参加者のアンケート調査による課題の発見。②教務・学生支援では、コロナ禍におけるオンデマンド授業に対する支援。③国家試験対策においても、コロナ禍における教員の指導とデータ分析。④6S活動は、学生のSNS問題、コロナ感染者を出さないための衛生環境の整備。⑤業務改善は、教員は教育方法の改善、シラバスや学生便覧の改善、職員は時間外業務の削減を目標にPDC活動を実施した。	学園全教職員が取り組む5つの活動のうち、PDC活動は、毎月実施した。1年間の目標に対して、毎月の目標、行動計画、検証を行い、次月の目標を定めている。大項目の、①学生募集では、学園部の入学定員充足のための対策。②教務・学生支援では、休退学者の減少、コロナ禍における学修支援。③国家試験対策においても、成績上位群への指導とデータ分析。④6S活動は、コロナ感染者を出さないための衛生環境の整備。⑤業務改善は、教員は教育方法の改善、シラバスや学生便覧の改善、職員は時間外業務の削減を目標にPDC活動を実施した。
	コンプライアンス教育	1.寄附行為及び各種規程規則に基づいて、理事会、評議員会及び各委員会を運営する。 2.各校毎に理念・目標に照らして教育研究活動の状況を自己点検し、現状を正確に把握・認識した上で、その結果を踏まえ、優れている点や改善を要する点など自己点検評価を行う。 3.教職員ハンドブックの配布を通じて、行動指針や行動規範の周知徹底を図る。 4.学生指導記録や USB メモリの取扱方法等、学内研修会を通じて教職員に啓発を行う。 5.個人情報を含む職務上知り得た情報の管理・運用やSNSの適切な利用について徹底した注意喚起を行い、一層の職員の規律を高める。	1.2019年度は、計画された会議は全て実施した。 2.2019年度は、大学をはじめとする各社は、自己点検・評価を実施し、その結果を各校のホームページに掲載している。但し、その結果内容の分析は公表していないため、次年度の課題である。 3.職員手帳により、大学を含めた本グループの理念や行動指針、行動計画は周知した。但し、学園のみの行動指針、行動計画は各校の事務室保管であるため、ホームページに掲載するなど、更なる周知徹底が必要である。 4-5.個人情報の保護、守秘義務は、学園の行動計画において啓発活動を常に、徹底されている。	1.寄附行為及び各種規程等に基づき、理事会、評議員会及び大学各会議、委員会を開催した。 2.2020年度は、大学、各専門学校、協定校も自ら、自己点検・評価を実施し、その結果を中々に掲載し、周知している。また、専門学校は学校関係者評価を受け、公表している。大学は、2021年度の認証評価の受審の準備を開始した。2020年度から専門学校も、自己点検・評価の分析結果の公表を行った。 3.前年同様、職員手帳や職員ハンドブックにより、行動指針、行動規範を周知した。また、ホームページにも掲載し、社会に周知することにした。 4-5.教員の学習指導記録の作成には至っていない。個人情報の保護、守秘義務、SNSの適切な利用は、医療従事者教育に必要な重要事項として、全体研修会や会議等において課題とし、問題があった場合には、教職員や学生への指導を徹底した。(2020年度は卒業生のSNS問題が大学に影響を及ぼしたため、学生への倫理教育を行った。)	1.寄附行為及び各種規程等に基づき、理事会、評議員会及び大学各会議、委員会を開催した。 2.2021年度は、大学、各専門学校、協定校も自ら、自己点検・評価を実施し、その結果を中々に掲載し、周知している。また、各専門学校は学校関係者評価を受け、公表している。大学は、令和3(2021)年度 大学機関別認証評価の受審を受け、適合の認定を受けた。また、各専門学校も、自己点検・評価の分析結果を公表した。 3.職員手帳や職員ハンドブックにより、行動指針、行動規範を全体研修会等で周知した。また、ホームページにも掲載し、社会に周知している。 4-5.個々に学習指導記録の作成している教員もいるが、全体として統一されていないので、2022年度は大学全体としてできるように計画したい。個人情報の保護、守秘義務、SNSの適切な利用に加えて、コロナ禍での発生する行動は、医療従事者教育に必要な重要事項として、全体研修会や会議等において注意喚起を行った。問題があった場合には、教職員や学生への指導を徹底した。(2021年度はコロナにおける、集団での飲食、密にならない行動、集客、サークル活動の制限を徹底した。)
	キャンパスの整備	(薬学部設置準備室) 1.2021年度開設構想の薬学部キャンパス計画の立案 (横浜山手校舎) 1.2022年度保健医療学部看護学科収容定員変更計画並びに専攻科設置に伴う、横浜山手校舎の計画の立案	(薬学部設置準備室) 1.2020年度3月文科省に薬学部設置申請書に記載した。保健医療学部棟の隣接地に、薬学部棟を建設し、本学は20年以上の賃貸借契約により、使用する計画である。2020年度に地下2階から地上3階部分の完成、2022年1月竣工予定(地上7階)である。	(共通) 1.学生の福利厚生の一環として、駐輪場の一部を改築し、学生サロンを設置した。 (薬学部) 1.コロナ禍の影響により、予定していた薬学部校舎建設工期は大幅に遅延したため、計画を変更して、初年度は、保健医療学部の校舎を使用することになった。	(薬学部) 1.コロナ禍の影響により、工期が遅れていた薬学部校舎が2021年3月に完成した。 (横浜山手校舎) 1.2022年度の保健医療学部看護学科の入学定員変更(140名)計画並びに専攻科の設置に伴い、看護学科1、2年生専用校舎及び専攻科校舎として学園が所有している多崎看護専門学校校舎(横浜山手校舎)を使用することになり、改築工事を行うことになった。
教育設備の充実	(保健医療学部) 1.学生同士の知的交流を生み出すグループワーク室を充実させる。 2.学内無線LANやプロジェクター等を積極的に活用した効果的な授業を実施する	(保健医療学部) 1.図書館内のグループワーク室にビデオ教材を設置し、視聴覚学習環境を整備した。 2.図書館以外に、学生食堂内に学内無線LANを配置し、インターネット環境を整備した。また、プロジェクター等の機器を有して、パワーポイントや動画教材を用いた授業を多数の教員が積極的に活用し、アクティブな授業を展開した。	(保健医療学部) 1.コロナ対策により、飛沫感染防止バーテーションの設置(食堂、図書館、会議室、その他) 2.コロナ対策による、オンデマンドやオンライン授業に関連する学習支援ソフト(manaba)の導入、タブレット等の機器備品の整備(国庫補助金を活用) 3.学内通信環境の強化整備	(共通) 1.コロナ対策により、飛沫感染防止バーテーション、検温システム、消毒剤の設置(食堂、図書館、会議室、その他)を継続強化した。 2.コロナ対策対応を徹底し、段階的にオンデマンドやオンライン授業から対面授業へ移行したが、学習支援ソフト(manaba)、タブレット等の機器備品、及び遠隔授業も適宜使用できるように学内無線LANなど通信環境の整備を充実させた。	

  

大学院教育	①社会人入学生の推進を図る。	(修士課程) 1.保健医療学研究科の広報を充実させる。	(修士課程) 1.保健医療学研究科を志願する社会人入学生が求める研究内容に対応するために、3領域の特別研究指導者を増員すべく、文科省に教員審査を提出し、1名がMO審査に合格した。	(修士課程) 1.社会人学生を獲得するために、オンライン授業の充実を含めて、現業医療従事者が大学の教員の研究業績や研究内容を分かりやすく広報周知する計画があったが、未達成となった。しかし、大学院の研究指導教員を充実させて、社会人学生の研究課題に広く応えられるようにするため、2020年度は、大学院教員審査に2名申請し、研究指導教員は、計15名となった。また、2022年度生の学生募集に向けて、大学院/タブレットを大幅に見直し、HPも改善する予定である。	(修士課程) 1.2021年度に2期生8名が入学した。前年引き続き、コロナ禍において、シラバスの内容に沿って各教科をオンライン授業を中心に学修し、第1期生6名が修士号を取得した。
	②AC期間中の保健医療学の大学院における教育研究を計画的に実施する。	(修士課程) 1.保健医療学研究科において、高度な専門職業人教育及び研究を行う。	(修士課程) 1.保健医療学研究科1期生11名を受け入れた。文科省に提出したシラバスの内容に沿って各教科の目標学修を実施した。	(修士課程) 1.2020年度2期生7名が入学した。コロナ禍において、シラバスの内容に沿って各教科をオンライン授業を中心に学修し、第1期生6名が修士号を取得した。	(修士課程) 1.2021年度2期生8名が入学した。前年引き続き、コロナ禍において、シラバスの内容に沿って各教科をオンライン授業を中心に学修し、第2期生5名が修士号を取得した。

資金収支予算決算総括表

(収入の部)

(単位 千円)

年度 科目	第Ⅰ期(2019~2022)						2023~2026(第Ⅱ期)									
	2019年度		2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	法人全体	法人全体	湘南医療大学	法人全体	湘南医療大学	法人全体	湘南医療大学	法人全体	湘南医療大学	法人全体	湘南医療大学	法人全体	湘南医療大学	法人全体		
学生生徒納付金収入	2,296,796	2,261,001	1,216,480	2,360,287	1,637,410	2,869,027	1,988,710	3,220,327	2,340,010	3,571,627	2,691,310	3,922,927	2,944,810	4,176,427		
手数料収入	48,537	43,962	59,970	84,163	64,370	87,110	64,370	87,110	64,770	87,510	64,770	87,510	64,770	87,510		
寄付金収入	76,928	676,073	225,420	525,420	0	90,000	0	90,000	0	90,000	0	90,000	0	90,000		
補助金収入	543,548	457,065	138,050	417,553	161,050	379,901	161,050	379,901	161,050	379,901	161,050	379,901	161,050	379,901		
資産売却収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
付随事業・収益事業収入	44,691	36,141	6,550	42,193	8,400	48,843	9,400	49,843	8,400	48,843	8,400	48,843	8,400	48,843		
受取利息・配当金収入	113	113	6	110	6	110	6	110	6	110	6	110	6	110		
雑収入	61,616	65,241	36,104	65,754	14,870	43,500	14,870	43,500	27,870	56,500	27,870	56,500	27,870	56,500		
借入金等収入	2,000,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
前受金収入	1,195,527	1,217,746	868,710	1,526,360	1,064,910	1,703,610	1,240,560	1,879,260	1,416,210	2,054,910	1,542,960	2,181,660	1,636,560	2,275,260		
その他の収入	53,833	280,489	5,450	51,186	1,816	34,687	883	33,754	1,816	34,687	1,816	34,687	1,816	34,687		
資金収入調整勘定	△ 1,482,459	△ 1,243,714	△ 642,476	△ 1,258,362	△ 899,593	△ 1,571,164	△ 1,065,793	△ 1,737,364	△ 1,242,376	△ 1,913,947	△ 1,418,026	△ 2,089,597	△ 1,544,776	△ 2,216,347		
前年度繰越支払資金	3,677,003	3,433,369	1,633,865	3,843,075	1,478,881	2,712,731	1,380,194	2,525,681	1,425,611	2,559,442	1,693,565	2,674,635	2,187,918	3,093,685		
収入の部合計	8,516,137	7,602,344	3,548,130	7,657,740	3,532,120	6,398,355	3,794,250	6,572,122	4,203,367	6,969,583	4,773,721	7,387,176	5,488,424	8,026,576		

(支出の部)

(単位 千円)

年度 科目	第Ⅰ期(2019~2022)						2023~2026(第Ⅱ期)									
	2019年度		2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
	法人全体	法人全体	湘南医療大学	法人全体	湘南医療大学	法人全体	湘南医療大学	法人全体	湘南医療大学	法人全体	湘南医療大学	法人全体	湘南医療大学	法人全体		
人件費支出	1,336,565	1,533,977	972,180	1,800,840	1,336,120	2,157,780	1,420,447	2,221,107	1,473,300	2,294,960	1,473,630	2,295,290	1,473,961	2,295,621		
教育研究経費支出	490,174	476,906	248,219	555,569	585,566	849,306	665,733	924,973	723,408	987,148	793,943	1,057,683	856,460	1,120,200		
管理経費支出	316,553	333,829	127,446	367,015	177,855	398,033	237,767	456,945	264,750	484,928	273,375	493,753	292,999	513,377		
借入金等利息支出	49,770	37,736	3,011	40,838	3,218	39,347	2,007	25,215	3,824	38,845	2,649	27,031	2,200	21,806		
借入金等返済支出	2,126,860	303,973	9,258	104,251	9,892	304,033	7,858	264,713	13,719	373,366	11,405	304,033	11,837	304,033		
施設関係支出	741,144	394,593	47,450	1,078,850	5,150	32,550	4,650	32,050	4,650	32,050	4,650	32,050	4,650	32,050		
設備関係支出	22,033	32,781	947,410	1,278,610	30,050	57,550	26,100	53,600	26,100	53,600	26,100	53,600	26,100	53,600		
資産運用支出	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
その他の支出	158,961	471,172	70,253	203,339	38,975	160,740	38,975	160,740	34,950	156,715	34,950	156,715	34,950	156,715		
[ 予備費 ]	0	(0)	0	(30,000)	0	(30,000)	0	(30,000)	0	(30,000)	0	(30,000)	0	(30,000)		
資金支出調整勘定	△ 159,293	△ 200,556	△ 355,978	△ 514,303	△ 34,900	△ 156,665	△ 34,900	△ 156,665	△ 34,900	△ 156,665	△ 34,900	△ 156,665	△ 34,900	△ 156,665		
翌年度繰越支払資金	3,433,368	3,843,076	1,478,881	2,712,731	1,380,194	2,525,681	1,425,611	2,559,442	1,693,565	2,674,635	2,187,918	3,093,685	2,820,166	3,655,838		
支出の部合計	8,516,137	7,602,344	3,548,130	7,657,740	3,532,120	6,398,355	3,794,250	6,572,122	4,203,367	6,969,583	4,773,721	7,387,176	5,488,424	8,026,576		

事業活動収支予算決算総括表

(単位 千円)

科目		第Ⅰ期(2019~2022)						第Ⅱ期(2023~2026)									
		2019年度		2020年度		2021年度		2022年度		2023年度		2024年度		2025年度		2026年度	
		法人全体	法人全体	湘南医療大学	法人全体	湘南医療大学	法人全体	湘南医療大学	法人全体	湘南医療大学	法人全体	湘南医療大学	法人全体	湘南医療大学	法人全体		
教育活動収支	収入	2,296,796	2,261,001	1,216,480	2,630,077	1,637,410	2,869,027	1,988,710	3,220,327	2,340,010	3,571,627	2,691,310	3,922,927	2,944,810	4,176,427		
	学生生徒等納付金	48,537	43,961	59,970	84,163	64,370	87,110	64,370	87,110	64,770	87,510	64,770	87,510	64,770	87,510		
	手数料	75,537	2,117	225,520	525,770	100	90,350	700	90,950	100	90,350	100	90,350	100	90,350		
	寄付金	315,284	449,437	138,050	417,553	161,050	379,901	161,050	379,901	161,050	379,901	161,050	379,901	161,050	379,901		
	経常費等補助金	44,691	36,140	6,550	42,193	8,400	48,843	9,400	49,843	8,400	48,843	8,400	48,843	8,400	48,843		
	付随事業収入	61,655	65,247	36,104	65,754	14,870	43,500	14,870	43,500	27,870	56,500	27,870	56,500	27,870	56,500		
	雑収入	2,842,501	2,857,906	1,682,674	3,495,720	1,886,200	3,518,731	2,239,100	3,871,631	2,602,200	4,234,731	2,953,500	4,586,031	3,207,000	4,839,531		
	教育活動収入計	1,345,964	1,544,266	975,180	1,820,840	1,339,120	2,172,780	1,423,447	2,236,107	1,476,300	2,309,960	1,476,630	2,310,290	1,476,961	2,310,621		
	人件費	770,940	755,260	494,019	889,209	950,172	1,300,085	1,032,620	1,378,033	1,101,293	1,451,206	1,175,878	1,525,791	1,239,345	1,589,258		
	教育研究経費	358,751	385,557	145,876	427,225	198,627	452,592	260,539	513,504	286,972	540,937	295,597	549,762	315,221	569,386		
管理経費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
徴収不能額等	2,475,656	2,685,084	1,615,075	3,137,274	2,487,919	3,925,457	2,716,607	4,127,645	2,864,565	4,302,103	2,948,106	4,385,844	3,031,528	4,469,266			
教育活動支出計	366,845	172,821	67,599	358,446	△ 601,719	△ 406,726	△ 477,507	△ 256,014	△ 262,365	△ 67,372	5,393	200,186	175,471	370,264			
教育活動収支差額	113	113	6	110	6	110	6	110	6	110	6	110	6	110			
教育活動外収支	収入	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	受取利息・配当金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	その他の教育活動外収入	113	113	6	110	6	110	6	110	6	110	6	110	6			
	教育活動外収入計	49,770	37,736	3,011	40,838	3,218	39,347	2,007	25,215	3,824	38,845	2,649	27,031	2,200	21,806		
	借入金等利息	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	その他の教育活動外支出	49,770	37,736	3,011	40,838	3,218	39,347	2,007	25,215	3,824	38,845	2,649	27,031	2,200	21,806		
	教育活動外支出計	△ 49,656	△ 37,622	△ 3,005	△ 40,728	△ 3,212	△ 39,237	△ 2,001	△ 25,105	△ 3,818	△ 38,735	△ 2,643	△ 26,921	△ 2,194	△ 21,696		
	教育活動外収支差額	317,189	135,199	65,594	317,718	△ 604,931	△ 445,963	△ 479,508	△ 281,119	△ 266,183	△ 106,107	2,750	173,265	173,277	348,568		
	経常収支差額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	特別収支	収入	233,232	691,175	3,300	5,500	3,300	5,700	3,300	5,700	3,300	5,700	3,300	5,700	3,300	5,700	
資産売却差額		233,232	691,175	3,300	5,500	3,300	5,700	3,300	5,700	3,300	5,700	3,300	5,700	3,300	5,700		
特別収入計		578	356	320	1,280	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
資産処分差額		0	375	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
その他の特別支出		578	731	320	1,280	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
特別支出計		232,653	690,444	2,980	4,220	0	5,700	3,300	5,700	3,300	5,700	3,300	5,700	3,300	5,700		
特別収支差額	0	(0)	0	(30,000)	0	(30,000)	0	(30,000)	0	(30,000)	0	(30,000)	0	(30,000)			
[ 予備費 ]	549,843	825,643	67,574	291,938	△ 601,631	△ 470,263	△ 476,208	△ 305,419	△ 262,883	△ 130,407	6,050	148,965	176,577	324,268			
基本金組入前当年度収支差額	△ 832,991	△ 656,459	△ 994,860	△ 2,395,714	△ 35,200	△ 329,225	△ 30,750	△ 308,108	△ 30,750	△ 341,442	△ 30,750	△ 324,775	△ 30,750	△ 324,775			
基本金組入額合計	△ 283,148	169,183	△ 927,286	△ 2,103,776	△ 636,831	△ 799,488	△ 506,958	△ 613,527	△ 293,633	△ 471,849	△ 24,699	△ 175,809	145,827	△ 506			
当年度収支差額	△ 483,496	△ 766,644	△ 1,146,239	△ 597,461	△ 2,073,525	△ 2,701,237	△ 2,710,356	△ 3,500,726	△ 3,217,315	△ 4,114,253	△ 3,510,949	△ 4,586,103	△ 3,535,648	△ 4,761,913			
前年度繰越収支差額	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
基本金取崩額	△ 766,644	△ 597,461	△ 2,073,525	△ 2,701,237	△ 2,710,356	△ 3,500,726	△ 3,217,315	△ 4,114,253	△ 3,510,949	△ 4,586,103	△ 3,535,648	△ 4,761,913	△ 3,389,820	△ 4,762,419			
翌年度繰越収支差額	(参考)																
事業活動収入計	3,075,847	3,549,195	1,685,980	3,501,330	1,889,506	3,524,541	2,242,406	3,877,441	2,605,506	4,240,541	2,902,556	4,537,591	3,210,306	4,845,341			
事業活動支出計	2,526,004	2,723,551	1,618,406	3,209,392	2,491,137	3,994,804	2,718,614	4,182,860	2,868,389	4,370,948	2,893,300	4,385,420	3,033,728	4,521,072			